
鍵穴 2

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鍵穴2

【Nコード】

N3190I

【作者名】

タケノコ

【あらすじ】

鍵穴の関連作品（あるいは続編として）として書きました。

ここは、ある国の諜報機関の施設。

そのの一室で全ての錠を開錠できる男I氏は、大型のコンピュータの前に座っていた。

「お前は、言われた通り、ただ鍵を開けば良い」

全ての錠を開錠できる男I氏の後ろに立った黒いスーツの男は指を示をだした。

「分かった……これを開けば良いのか？」

I氏の前には、アメリカ、ペンタゴンのパスワードコード入力画面が映し出されていた。

「そつだ、手短に頼む」

「わかった……」

I氏には見えていた。画面に浮かぶ鍵穴が。I氏は、右手人差し指を前に出す。

すると、I氏の人差し指が電気で構成された鍵に変わったではないか。それを、コンピュータの画面に浮かぶ鍵穴に差し込み回した。

「全てのパスワード、突破しました！ついで、軍事情報及び機密情報を取り出しにかかります！」

慌ただしく動き出した諜報機関のエンジニア達。

「でかしたぞ！！閉じる時もこちらの所在がわからないように頼む
！」

「わかった……」

・
・
・

「I氏は、政府が人体改造したある意味での兵器だったのだ。」

「今まで鍵屋を営んでいたのは、他国を欺くためか……私は人です
らなかったのだな……」

悲痛そうなI氏の頬を涙でないものが流れた。

「おしまい」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3190i/>

鍵穴 2

2010年12月30日03時54分発行